

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 6 号)

1 平成3年9月30日（月曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 28名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稻 陞
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
23 番 石井 昌治	24 番 石井 輝久
25 番 流山源次郎	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総 務 部 長 二通 英雄	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 脇田 元始	建 設 部 長 伊東 衛
水 道 課 長 鈴木 信一	教 育 委 員 会 長 福原 修
選 挙 管 理 委 員 会 長 加藤 利	選 挙 管 理 委 員 会 長 伊丹 三男
監 査 事 務 局 長 島田 啓夫	農 業 委 員 会 長 斉藤 明
農 業 委 員 会 長 小倉 孝	

1 出席事務局職員

事務局 長 兵藤 恭一

事務局 長 補 佐 土橋 康彦

書 記 鈴木 哲

書 記 鈴木 修一

書 記 加藤 浩一

1 議事日程（第6号）

平成3年9月30日午前10時開議

- | | | | |
|-------|--------------|---------------------------------|---|
| 日程第 1 | { | 議案第32号 | 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第33号 | 館山市監査委員条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第37号 | 平成3年度館山市一般会計補正予算（第2号） |
| 日程第 2 | { | 議案第34号 | 館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第35号 | 館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第38号 | 平成3年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第 3 | { | 議案第36号 | 館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第39号 | 平成3年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号） |
| | | 議案第40号 | 平成3年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第 4 | 請願第 1号 | 産業廃棄物処理場設置に関する請願書 | |
| 日程第 5 | 閉会中の継続審査について | | |
| | 認定第 1号 | 平成2年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について | |
| | 認定第 2号 | 平成2年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について | |

- | | | | |
|---------|---|----------------------|---|
| 日程第 6 | { | 認定第 3 号 | 平成 2 年度館山市老人保健特別会計歳入歳出
決算の認定について |
| | | 認定第 4 号 | 平成 2 年度館山市ユースホステル特別会計歳
入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 5 号 | 平成 2 年度館山市学童災害共済事業特別会計
歳入歳出決算の認定について |
| | | 認定第 6 号 | 平成 2 年度館山市水道事業特別会計収支決算
の認定について |
| | | 認定第 7 号 | 平成 2 年度館山市国民宿舎事業特別会計収支
決算の認定について |
| 日程第 7 | | 議案第 4 1 号 | 工事請負契約の締結について |
| 日程第 8 | | 議案第 4 2 号 | 館山市教育委員会委員の任命について |
| 日程第 9 | | 発議案第 6 号 | 第 8 次治水 5 箇年計画の策定と計画規模の大
幅な拡大に関する意見書について |
| 日程第 1 0 | | 発議案第 7 号 | 館山駅周辺整備調査特別委員会の設置につい
て |
| 日程第 1 1 | { | 発議案第 8 号 | 館山市議会委員会条例の一部を改正する条例
の制定について |
| | | 発議案第 9 号 | 館山市議会会議規則の一部を改正する規則の
制定について |
| 日程第 1 2 | | 各委員会所管事務の閉会中継続調査について | |

開 議 午前 1 1 時 2 7 分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数 28 名、これより第 3 回市議会定例会第 6 日目の会議を開きます。

議案の配付

◎議長（福原 勤君） 議案の配付をいたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第32号、議案第33号及び議案第37号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、9月19日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長日下君敏君。御登壇願います。

（総務委員会委員長日下君敏君登壇）

◎総務委員会委員長（日下君敏君） ただいま議題となりました議案第32号、議案第33号及び議案第37号にかかわる総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月19日の本会議におきまして、本委員会に付託されました各議案について、21日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

まず、議案第32号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の改正は、町内会等の地縁団体が法人として認可を受けた場合、法人税法上の公益法人等とみなされることになった点であります。そこで、実際に町内会等が法人としてみなされた場合どの程度の税額になるのかと説明を求めましたところ、法人市民税の均等割が約4万円、県民税において1万円、計5万円であるとの説明がありました。なお、現在まで認可の申請はないとの説明でありました。

次に、議案第33号館山市監査委員条例の一部を改正する条例の制定についてであります。改正そのものは自治法の改正に伴うものであります。ただ、これに関連して、庄司市長は選挙の際にオンブズマン的制度の導入をうたわ

れておりましたが、その後どうなったのかとの質問をいたしました。これに対して市長は、行政と市民の間に太いパイプがあるのか、なければオンブズマン的制度の導入をする必要があるのではないかと住民からの声がかかなりあった。しかし、現状においては市民の声を代表する市長及び議会間において意思の疎通が図られているという観点から、今は推移を見ていきたいというふうに考えているとの見解が示されました。

次に、議案第37号平成3年度館山市一般会計補正予算（第2号）であります。まず、歳入において補正財源として繰越金1億2,332万円が計上されておりますが、これに関連しての質問があり、前年度決算によると5億5,000万円の黒字となっている。このような大幅な黒字決算をするよりも、もっと市民のための施策を講ずるべきだとの質問がありました。これに対して市側は、実質収支の多寡については通常標準財政規模に対する実質収支額の割合——すなわち実質収支率で判断される。団体の規模や経済の動向により一概に言えないけれども、標準的にはその率は3%から5%程度が望ましいと考えられている。本市は7.0%と高い率を示したが、これは県内の市では上から11位である。また、実質収支額では23位となっている。実質収支率、実質収支額ともに館山市より少ないのは3市である。御指摘のとおり、平成2年度において5億5,000万円とかなりの剰余金が出てはいるが、これは次年度以降に予想される大規模事業の財源として活用してまいりたい。また、これからは既に始まっている大規模事業等もあるので、平成2年度のような大きな剰余金はないものと思うとの説明がありました。これに対して委員会側から、毎年毎年同じように剰余金が出るということは財政の硬直化乃至計数の読みの甘さを示しているようにも見える。市民の要望に応えた積極的な財政をしなければならないのではないかと意見がありました。

次に、広報編集業務委託料について本会議でも質疑がありましたが、さらに突っ込んで説明を求めましたところ、平成3年度の予算編成後に現在の広報をさらに市民に身近なものとし、興味を持って読んでもらおうという趣旨から、企画編集に精通した専門家に委託して読みやすいものをつくろうということになり、今年4月から委託した。予算については、当面広報予算の中

で執行変更で対処するというににして6カ月間委託契約を行った。その結果、効果が上がっているということがわかったので、引き続き年度末までの委託をお願いすることにいたしました。このために6カ月間の必要額の補正をお願いしたものであるとの説明がありましたが、委員会側は市業務の中で設計等の事務的な業務についての委託は必要だという点は理解するけれども、市の広報というのは市長の精神そのものを訴える手段であり、また市の政策、方針を市民に打ち出していくものであるもので、このような業務は企画編集を民間に委託するのは好ましくないとの指摘がありました。これに対して市側は、基本的な企画編集については市の広報係で行っているとの説明がありました。

次に、今回各項目に臨時職員賃金が計上されているが、その理由と業務の内容について詳細に説明を求めました。すなわち委員より、今後の事業の動向等を考えた場合本来正規に職員を採用すべきものではないか。人員についてはその員数が適正かどうか大きな問題だと思うが、今後の市政運営に当たって単に欠員補充だけで増員はしないということにすると市行政の執行の上で支障を来さないかとの質問がありました。これに対して市当局は、職員の配置については毎年各課と話し合いを行い、新規事業や見通せる事業についての職員の増減を把握し、それらを反映した採用計画を立てており、必ずしも現在の人員を守るということではないとの説明がなされました。

次に、観光費に館山市観光振興基本計画策定協議会の委員報酬と策定委託料が計上されている点をとらえ、この内容について説明を求めました。そして、さらに市長の諮問機関の構成員に議員が――議員とは市会議員ですね――構成員に議員が入ることは、議決機関であるという立場から問題があるということは理解できるが、しかしこの種の計画策定というものはでき上がってから報告されたのではなかなか議会の意見も反映されにくく、隠れみの的な機関になるおそれがある。このような計画策定などの機関には議員も入るべきだとの指摘がありました。これに対して市長から、今までの議会及び行政との関連、経緯等を踏まえつつ、今後議長とも相談しながらこの問題を進めてまいりたいとの考えが示されました。

以上、本委員会における審査の概要を御説明申し上げましたが、採決の結果、付託を受けた議案第32号、同第33号及び同第37号についてはいずれも全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより議案第32号、議案第33号及び議案第37号について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第34号、議案第35号及び議案第38号の各議案を一括して議題といたします。

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、9月19日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長永井龍平君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長永井龍平君登壇）

◎文教民生委員会委員長（永井龍平君） ただいま議題となりました議案第34号、議案第35号及び議案第38号にかかわる文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月19日の本会議におきまして、本委員会に付託されました各議案につきまして、24日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

まず、議案第34号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。本議案は弓道遠的射場を新たに社会体育施設に加えるもので、既に本会議において場所やその管理について質疑がありましたが、さらに本委員会においても詳細に質疑がありました。その内容を要約いたしますと、建築費は94万8,000円、使用料の設定については市民センターの近的射場や近接の設置市町村の料金を考慮したものであり、体育協会主催の大会や体育協会加盟の団体が使用する場合は減免措置を講ずる。また、市民センターの近的射場は競技の種目が異なるので、そのまま続けていくとの説明がありました。

次に、議案第35号館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回館野保育園の定員を40名から60名に改正するものであります。まず当初は60名定員であったのではないかと指摘に対しまして、館野幼稚園が2年保育を行うのに伴い、59年度から40名とした経緯があるとの説明がありました。なお、園児数については、平成元年度以降定員の40人を維持しており、平成3年度には他の保育園に超過した6人を措置した経過があるとのことでありました。ちなみに、他の保育園については80%台の措置率になっているとの説明がありました。委員より、定員の増加に伴い適正

な保母の配置をされるようにとの要望意見がありました。

次に、議案第38号平成3年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）であります。まず平成2年度の剰余金については2億3,153万1,000円であるとの説明を受け、今回そのうち1億667万円を繰越金として充当しているが、残りはどうするのかとの質問に対し、既に7,500万円を当初予算に計上済みで、残りは現在医療費の改定時期を迎えており、改定があった場合の財源として留保しておくとの説明がありました。

次に、財政調整基金の適正規模について質問があり、従来県の指導は保険給付費の3カ月分の保有ということであったが、その後国の指導では保険給付費の5%以上の保有となっている。館山市の場合、今回の補正を含めて5.85%になるとの説明がありました。

次に、本年度の国保会計の状況について説明を求めましたところ、現在わかっている給付費は7月分までであるが、前年同期に比較して2.8%の増であり、順調に進んでいる。現在のまま推移すれば剰余金が出るものと思うとの説明がありました。

次に討論を行い、国民健康保険特別会計補正予算に対し、国保税が非常に高いという認識を持った人が多く、また払いたくても払えない人がいるのではないかと。本会議で税率を引き上げないように努力するとの考えが示されたが、将来の保証はなく納得できないので反対するとの意見がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第34号、議案第35号については全員一致をもって、議案第38号については賛成多数をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第34号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第35号館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第38号平成3年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第3、議案第36号、議案第39号及び議案第40号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、9月19日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長岩村勝弘君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長岩村勝弘君登壇）

◎建設経済委員会委員長（岩村勝弘君） ただいま議題となりました議案第36号、議案第39号及び議案第40号にかかわる建設経済委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月19日の本会議におきまして、本委員会に付託されました各議案につきまして、24日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

まず、議案第36号館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。給水人口は何年を目途に設定したかとの問いに対しまして、平成12年を目途としたものであるとの説明がありました。

次に、館野、九重地区に対する説明会の状況と加入見込みはどの程度と考えているかとの質問に対しまして、説明会は28地域全地域を終えており、初めての水道ということもあるので、水道事業全般にわたって説明をした。当初の館野、九重地区の普及率については、推計で平成7年に50%、12年に66.7%、平成12年の館山市全体の普及率は96.1%と見ているとの説明がありました。

なお、配水管を持っていく位置の設定については10軒程度を対象に引くというのが基本的な計画であるとの説明がありましたが、さらに、負担については個々に差が出ると思うが、解消策はないかとの質問に対しまして、共同施工の方法などが今までの例であるが、今後十分地域の人たちと話し合いをしていきたいとの説明がありました。委員より、遠くの方は費用もかかるので、市の方で相談に乗ってスムーズな加入方法をとられるようにされたいとの要望がありました。

次に、給水地域に豊房の畑地域が含まれていないことについて説明を求め

ましたところ、県と協議をしている中で今回の第3次拡張事業の中に畑地域を取り組むことは経済的にも技術的にも困難であり、行うとすれば簡易水道方式がいいのではないかという検討をしているとの説明がありました。

次に、議案第39号平成3年度館山市水道事業特別会計補正予算であります。が、資本的支出の委託料については既決予算でも計上されていたと思うが、今回新しい事業が追加されたのかその事情について伺いましたところ、今回新設配水場の地質調査業務として地主との了解が得られたためにボーリングを行うもの。また、配水管の軌道敷横断地質調査業務と占用申請図作製業務については、従前踏切横断が5カ所であったが、1カ所ふえたことによるものであるとの説明がありました。

次に、平成3年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算であります。が、ことしの観光客の入り込み状況は悪いと聞いているが、鳩山荘においては例年と比べてどうか質問しましたところ、8月は75人ほど減少したが、ことしは6月が特別によかったため、8月までの累計では424人ふえている状況にあるとの説明がありました。

以上が主な質疑応答であります。

採決の結果、付託を受けました議案第36号、議案第39号及び議案第40号については全員一致をもちまして原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、建設経済委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長の報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより議案第36号、議案第39号及び議案第40号について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

請願書の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第4、請願第1号産業廃棄物処理場設置に関する請願書を議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました請願第1号は、去る6月20日の本会議において文教民生委員会に付託され継続審査となっていたものであります。

よって、これより本請願に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長永井龍平君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長永井龍平君登壇）

◎文教民生委員会委員長（永井龍平君） ただいま議題となりました請願第1号産業廃棄物処理場設置に関する請願書にかかる審査の概要について御報告申し上げます。

本請願は、去る6月議会において本委員会に付託され継続審査中のもので、今議会で内容の一部訂正の申し出が承認されたものであります。

9月24日招集の委員会において審査の結果、全員一致をもって採択することに決しました。

以上、御報告申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本請願についての委員長の報告は採択するであります。

本請願を委員長の報告どおり採択することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本請願を採択することに決しました。

閉会中の継続審査について

◎議長（福原 勤君） 日程第5、継続審査についてお諮りいたします。

総務委員会に付託中の請願第3号ゆとり宣言に関する決議の請願書及び請願第4号朝鮮民主主義人民共和国との早期国交樹立促進方要望に関する請願書について、委員長から慎重審査の必要上、会議規則第104条の規定により、閉会中の継続審査とされたいとの申し出がありました。

各請願を委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各請願は閉会中の継続審査とすることに決しました。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時59分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数25名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第6、認定第1号乃至認定第7号平成2年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

決算審査特別委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各会計決算は、ともに9月20日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本決算に対する決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長山中金治郎君。御登壇願います。

（決算審査特別委員会委員長山中金治郎君登壇）

◎決算審査特別委員会委員長（山中金治郎君） ただいま議題となりました認定第1号乃至認定第7号平成2年度館山市一般会計及び特別会計にかかわる決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る20日の本会議におきまして、本委員会に付託されました各決算につき

まして、25日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。審査に当たっては、提出された説明資料に基づいて市当局の考えをただし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主な点について御報告申し上げます。

まず、一般会計総務費であります。会計管理費においてファクシミリ手数料 8,204円が支出されていますが、関連して本庁には1台のファクシミリしか設置されていないようであるが、現在の情報化社会の中で事務の効率化、また災害時、緊急時に備えるとの観点から、各階にファクシミリの設置を検討されたらどうかとの意見がありました。

次に、企画費においてコミュニティセンター周辺利用計画策定業務委託料 749万余円が支出されていますが、どのように周辺を利用するのかこの策定業務の内容について説明を求めましたところ、主要地方道館山白浜線バイパスの建設に伴い敷地が東西に分割されるため、東西広場のアクセス方法等について千葉県及び千葉県警察本部と早急に協議する必要がある利用計画を定めたものである。当時の基本的な考え方として、文化ホール、市役所を想定して作成しているとの説明がありましたが、委員より、できれば策定したものについてその内容等議会に説明を願いたいとの意見がありました。

次に、徴税費中納税組合に対する奨励金が 983万余円支出されていますが、市内の組合数と今後の納税の方向について質問いたしましたところ、現在納税組合数は 160組合で、県全体を見ると組合数が減少している傾向にある。今後の方向としては口座振替に切りかえていく方針であるとの説明がありましたが、委員より口座振替の方が滞納が多くなるのではないかと意見がありました。

次に、民生費であります。行旅死亡人等取扱手数料23万余円の内容については、行旅病人1名、行旅死亡人2体の火葬等の手数料であるとの説明がありました。

次に、福祉作業所の現在の状況と今後の見通しについて説明を求めました

ところ、福祉作業所については現在定員が19名となっているが、運用で25名入所している。作業の内容は、ボールペンの組み立てと食品の詰め合わせを行っているが、今後も作業所に適した仕事を探していきたい。なお、現在の作業内容からはまだ若干入所の可能性があるとの説明がありました。

次に、老人福祉費中老人日常生活用具交付扶助費として 135万余円支出されていますが、この内容については特殊寝台8台、マットレス8台、老人用電話2台、紙おむつ 137件、緊急用電話レンタル料5台分であるとの説明がありました。特殊寝台等非常に高価なものがあるので特に配慮願いたいとの要望がありました。

さらに、高齢者事業団報償金が支出されていますが、高齢者働く会の育成方法について説明を求めましたところ、現在会員数が22名で、委託内容については草刈り30件、測量の助手12件、計42件で、収入としては約50万円であるとの説明がありました。この趣旨は大変いいと思われるが、運営が非常に難しいので、今後もコーディネーターを活用して円滑に運営されたいとの要望がありました。

次に、衛生費であります。環境衛生費において家庭用小型合併処理浄化槽設置事業補助金 1,209万余円が支出されていますが、実績としては5人槽5基、6人槽9基、7人槽6基、8人槽4基、10人槽3基、計27基に補助を行ったもので、人槽によって補助額は異なるが、5人槽の場合で30万 9,000円の補助となり、補助額については国、県、市が3分の1ずつの負担をしているとの説明がありました。委員よりさらにその制度のPRに努められるようとの要望がありました。なお、平成3年度からは公共下水道の計画区域 100ヘクタール内の設置については補助は行わないとの説明がありました。

次に、じん芥処理費において、環境美化カレンダーを作成され市民から大変好評を得ているが、さらに充実したものを作成されるよう要望いたしましたところ、ごみの分け方、出し方についてカレンダーの中ではっきりしていなかった。これらについて検討しているとの説明がありました。

次に、労働費であります。勤労者団体補助金として 160万円の支出がされていますが、対象団体については地区労働協議会センターであり、勤労者

の福祉の向上ということで昭和32年から支出されているとの説明がありましたが、平成2年度に労働界の再編成も行われたことでもあり、今後さらに洗い直しも必要でないかとの指摘に対しまして、長い間の歴史を持つ補助金であるので、その点を踏まえながら内容等について検討してみたいとの考えが示されました。

次に、農林水産業費であります。松くい虫防除特別対策事業補助金63万円が支出されていますが、この内容について説明を求めましたところ、地域ぐるみ防除として市内のゴルフ場で防除を行うものと地域奨励防除として安房西部森林組合で行っているものに対する補助であり、それぞれの負担割合については地域ぐるみについては県、市、地元で各3分の1、地域奨励防除については県が87.5%、市が12.5%であり、個人的な防除に対する補助ではないとの説明がありました。

次に、水産業費において、外来船誘致事業補助金30万円が支出されていますが、外来船の誘致に対する考え方について説明を求めましたところ、船形の漁業組合に外来船が水揚げすることにより、水産加工業者等の経営の安定、経済効果を高めるということで本事業を実施している。静岡県の方に出向いて館山への水揚げを要請しているようであるとの説明がありましたが、委員より水揚げが減少している原因等についても論議がなされ、他の漁港への水揚げがされているようにも聞いているので、何とか館山への水揚げが多くなるような方策を講じていただきたいとの要望をいたしました。

次に、商工費であります。インダストリアルパーク基本計画策定業務委託料 772万 5,000円が支出されていますが、インダストリアルパーク事業については県の事業と聞くが、基本計画の策定については市が行うのかという質問に対して、県においてさわやかハートちば5か年計画が策定中で、その中に館山市のインダストリアルパーク計画を位置づけてもらおうという運動を平成元年度の後半から進めていた。最終的に県の事業にのせるためには基本的な計画を策定する必要があるということで、県の指導を得て実施したものである。内容としては、開発区域の設定、土地利用計画、交通計画、給排水計画、整地計画、事業計画などについて策定したとの説明がありました。

なお、今後の事業化に当たってはまだ細部の決定を見ていないが、主要な部分は県が事業主体となるが、必要な関連経費については若干市が負担する場合も出てくるのではないかとの考えが示されました。

次に、土木費であります。主要地方道館山白浜線バイパス建設促進協議会負担金8万円が支出されておりますが、館山白浜線バイパスについては国道128号を起点として現道館山白浜線に至る2.3キロメートルで、県から館山市が用地買収の委託を受けており、年度ごとに買収を行い平成7年度を目途に事業を進めているとの説明がありました。

関連して、館山白浜線から分岐する川名大賀線についても説明を求めましたところ、これから用地測量等を実施し、国の補助を仰いで実施したいと考えており、採択されれば平成4年度から一部用地買収に入りたいとの説明がありました。

次に、教育費であります。博物館費において展示資料購入費532万余円が支出されておりますが、資料収集に当たっての基本的な考えについて説明を求めましたところ、内部的なものであるが、博物館準備室のときに資料取得基準というものを設けている。館山市の歴史と民俗にかかわるものを重点的に購入するということであるが、行政区画の上での館山市ということでは歴史あるいは文化的なものはとらえ切れないので、あくまでも館山市を取り巻く昔の安房の国までを範囲として資料収集に当たっているとの説明がありました。なお、今回は博物館の資料購入費として予算計上された中での執行であるが、このほか資料購入費では購入できない高額な場合、かつ緊急を要する場合に対処するため3,000万円の文化振興基金があるとのことでありました。

次に、館山市体育協会補助金517万余円が支出されておりますが、これについてはほとんどが県大会等に参加するための旅費等に使用されているとの声も聞くが、館山市の体育のレベルが低くなってきているように思えるので、補助金の増額を含めた強化策を考えていくべきではないかとの指摘に対しまして、補助金については各部の普及費、事業費ということで約60％が使用されており、すべてが大会等への旅費とはなっていない。今後も予算面あるい

は施設の面を考え合わせながら競技力の向上に努めていきたいとの説明がありました。

次に、一般会計歳入であります。まず、監査委員による決算審査意見書によると、「収納率の向上に一層の努力を望むものである」と記載されているが、市民税の収納率は落ちているのかとの質問に対しまして、前年対比で現年度課税分については0.59ポイント、滞納繰越分については0.35ポイント、合計で0.5ポイントのダウンであるとの説明がありました。さらに、その主な原因について説明を求めましたところ、法人市民税の滞納が大きく、現年度分については前年度対比で4.29ポイントのダウンで、不動産関係の法人による大口滞納として100万円以上が6件あった。県内各所を見ても前年度対比で収納率を下回った市が18市あり、内容についてはやはり同じような傾向にあるとの説明がありました。

次に、特別土地保有税、また地方交付税については特に年度中途における補正予算額が極めて大きい、市は当初すべて予算を見込んだとしているが、これでは過小見積もりではないかとの指摘に対しまして、特別土地保有税については保有にかかわる分と取得にかかわる分があり、当初予算の段階では取得にかかわる分についてどのくらいの取得があるか不明であるので、当初予算には保有にかかわるものを予算計上している。その後の取得の状況によりこのような結果になったもので、構造的に当初予算に計上できないものである。さらに、地方交付税については、2年度において水源対策費が特別交付税から普通交付税に算定されることになったこと、また財源対策債償還費や単位費用等の増加により基準財政需要額の伸びが基準財政収入額の伸びを上回ったことにより普通交付税が伸びたが、これらについて当初予算編成の際に国から指導があった伸び率より伸びが大きかったこと、並びに当初予算編成の際に災害等、追加財政需要に対処するため財源を留保したので補正額が大きくなったものであり、普通交付税については全額補正予算で措置しているとの説明がありました。

次に、財産に関する調書に関連して、公有財産における有価証券、また各基金における有価証券について詳細にその内容等説明を求めました。なお、

現金の運用についてはそのほとんどを指定金融機関、その他収納代理金融機関による大口定期により運用しているとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります、国保税の負担はその限界に来ている。単に一市だけでは解決できないと思うが、最低限税率だけは据え置いていけないか市長の考えを伺いましたところ、国保税の問題についてはたくさんの意見を聞いている。5年前からこの税率で進めているようであり、できるだけそのような意見を踏まえて対処していきたいとの考えが示されましたが、委員より負担の限界に近づいており、社会的弱者が多い保険であり、他の保険と比較すると高いのは明らかであるので、さらに市当局の一層の御努力を強く要望をいたしました。

以上が本特別委員会における質疑応答の概要であります。

次に討論を行い、一般会計については当初予算の作成において消費税の問題等含めた諸問題があり、当初予算自体に問題があると考えて認定に反対する。国民健康保険及び老人保健特別会計については、保険制度自体に問題があるというのは認識しているが、国の補助率が低いために問題が起きているようにも考えられる。この改善方について国に積極的な働きかけを要望し、認定には反対するとの意見がありました。

次に、予算の執行については補助金等いささか疑念のある点もあるが、その点については今後検討するという回答もされており、ほぼ予算の執行は適切に行われたと認める。国民健康保険特別会計についても、近隣市町村に比較して金額的には低きにあるということで市の努力を認めるものである。すべての決算認定について賛成するとの意見がありました。

採決の結果、付託を受けました認定第1号一般会計決算、認定第2号国民健康保険特別会計決算、認定第3号老人保健特別会計決算については賛成多数をもって、認定第4号乃至認定第7号の各特別会計決算については全員一致をもってそれぞれ認定すべきものと決しました。

今後なお市当局におかれましては、財源の確保と合理的な予算の執行により市民福祉の向上と市政の進展を図られるよう要望するものであります。

以上で決算審査特別委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 認定の第1号平成2年度館山市一般会計決算、認定の第2号平成2年度館山市国民健康保険特別会計決算、認定第6号平成2年度館山市水道事業特別会計決算、認定第7号平成2年度館山市国民宿舎事業特別会計決算にそれぞれ反対の討論をいたします。

平成2年度の予算は、消費税の市民負担を当然の前提とする予算として組まれました。このため、水道料金、国民宿舎料金、くみ取り料金などに消費税分が上乗せをされました。消費税は言うまでもなく弱い者いじめの悪税であり、一刻も早く廃止すべきであります。東京都議会では、これまで消費税廃止を主張してきた都議会社会党が、事実上都バス料金への消費税上乗せを容認したことは大変に残念なことであり、厳しく批判されなければなりません。消費税はやはり認められません。消費税の廃止に向けて市民の暮らしを守るべき立場に立ち、市は水道料金等の市の各種公共料金への消費税上乗せは一刻も早くやめるよう強く主張いたします。

平成2年度決算ではいわゆる黒字額の実質収支が5億5,400万円にもなりました。平成元年度では5億5,900万円余、昭和63年度決算では7億6,100万円余と、ここ3年間毎年5億円を超える黒字を計上しております。このことは市民の暮らしを第一とする立場に立ち特に在宅老人福祉の充実に思い切った予算を振り向け、積極的に取り組むべきことが財政的にも十分可能であ

ることを示しています。館山市は高齢化が既に全国平均の20年先の段階になっており、福祉対策の点でも全国の先進地とならなければなりません。しかし、現状はとても20年先の老人福祉対策が取り入れられているとは言えません。福祉事務所の体制も抜本的に強化をして、老人世帯への生活援護型の給食サービスやデイ・サービスなどの老人福祉対策に思い切って取り組むよう強く主張いたします。

市の国保税は大変に高く、払い切れない世帯が大変多いにもかかわらず、2年度決算では2億 3,100万円余の黒字を計上いたしました。この黒字はいわば本来不要であった国保税であります。ここ3年ほどの決算を見ても、元年度で1億 4,500万円余、63年度では2億 5,800万円余の黒字となっております。国保税の減税は十分に可能であったことを示しています。特に、保険給付費は2年度で 9,800万円余、元年度で 9,000万円余、63年度では1億 8,400万円余の不用額を出しております。これは事実として1世帯当たり約1万円ほどの保険給付費の過大見積もりがあったということを示しております。今後の医療費の動向等を踏まえながらも今後かなりの減税が可能であります。国保税の減税を検討するよう強く求めます。

また、一般会計からの繰り入れ 2,800万円余を実施しております。この繰り入れは前々年度の不納欠損額と前年度の減免額を国保加入者の新たな負担としないとの前提から一般会計で負担しようとするものであります。この繰り入れのルールは今後も大事なことと考えます。しかしまた、現在の国保の加入者は国保税で負担しているのは単に医療にかかわる費用ばかりではなく、国保を担当する市職員の人件費などを含む国保の事務費についても2年度決算では約 2,000万円ほど負担をしております。本来この事務費については国が全額負担すべきものでありますが、国の交付額が低くそのためいわゆる超過負担となっているものであります。この超過負担額は毎年 2,000万円乃至 3,000万円程度にもなっております。この部分については本来国保加入者の負担とすべきではなく、国に超過負担の解消を求めるとともに当面市で負担をし、一般会計からの繰り入れをすべきと主張いたします。国保会計への繰り入れのルールを再検討し、加入者の国保税の軽減を図るよう求めまして、

反対討論といたします。

◎議長（福原 勤君） 以上で神田守隆君の討論を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 私はただいま報告ございました決算委員長の報告に対して賛成の討論をいたしますので、御了承いただきたいと思います。

平成2年度の決算につきましては、当初予算 115億 3,500万円に対しまして決算額は 133億 5,300万円と予算現額に対しまして 102%の伸びを見ているわけでございます。これは最近の高度成長の中から当然であろうかと思えまするけども、大変な努力があったものと思うわけでございます。一方、支出に際しましては 127億 8,400万円の支出でございまして、これは予算現額に対するとおの98.2%に当たるわけでございまして、かなり節約をして、また予算に対してぎりぎりの線で執行されたわけでございまして、この執行に対しましては半澤市長から庄司市長へというバトンタッチがある中で滞りなく処理されたものと評価するものでございます。

2番目には、収支残額でございするけれども、こうした中におきまして5億 6,800万円の黒字を出したということについては、単年度予算の中においてはやはりこれは率直に評価しなければならないところであろう、このように思うわけでございまして、この点について評価をいたしたいと思います。

3番目には、市債の支出でございするけれども、平成元年度の市債の支出額は8億 3,400万円であったわけでございするけれども、平成2年度におきましては3億 6,300万ということで、前年対比で起債の債権の支出額が半分以上に減っているということについては歓迎するところでございまして、この3点を高く評価いたしましてこの決算に対して賛成をするところでございます。

そして、私はこの決算に対しまして将来に向かいまして5点の意見を申し添えたいと思うわけでございます。まず第1点は、総論といたしまして市税の伸びがあったわけでございます。したがって、国からの交付税も大幅に伸びた反面、国庫支出金、県支出金がかかなり減少しているわけでござい

す。この国庫支出金、県支出金というのは、国県の委託業務的な性質の予算でございます。したがって、農林予算、福祉予算、土木予算、教育予算にかかわるものでありますけれども、これらの予算がしたがって全体的に後退しておる。先ほども指摘されましたように、高齢化社会を迎えた中でもって、福祉、教育、さらには土木、農林という基本的な産業の整備については、館山市は過疎化でございますからこうした面についてはもう少し意欲的な施策が講じられなかったか。こうした点について今後十分配慮をしていただきたい。

2番目には、人口5万6,000の都市にいたしましては財政規模の低さは見逃せません。平成2年度においても非常に停滞しているわけでございます。もう50%程度の上乗せをしていかなきゃならない。近隣市におきましても、館山市同等規模の市におきましては180億から200億ぐらい程度の予算が組まれているわけでございますから、そうした面についてはこの決算の中においては克服されていないわけでございますので、そうした予算の拡大に今後留意していただきたいというふうに思うわけでございます。

3番目には、2年連続で高額な繰越金を出しているわけでございます。先ほども指摘ございましたように、平成元年は7億6,100万円、平成2年度決算は5億5,800万円ということでございます。このことは黒字を出すための黒字でございまして、これ委員会の中におきましては次の年度の事業を推進するために予算を節約したためだ、こういうためだということと言われておりましたけれども、そういうことであれば平成7年度が7億6,000万という大変な繰越金出したわけですから、平成2年度はそれを基盤にいたしましてさらに積極的な予算を組むべきであり、また執行に当たるべきだったわけでございますけれども、依然として同じような経過をしておる。これは今予算編成期であるわけでございますし、また庄司市長も2年目の予算を、2度目の予算を今編成中であるわけでございますから、こういう点についてはもうより積極的な予算編成に当たっていただくことを要望いたす次第でございます。特に、繰越金を5億乃至8億ぐらい出さないと、いろんな社会の変動、財政運用の変動によって支障を来す場合もあるから、どうして

もこのぐらいのものは黒字を出さなきゃならないんだということを言われておりますけれども、これは詭弁であろうというふうに私は思うわけでございます。館山市はそのために財政調整基金というのが23億円あるわけでございます、平成2年度決算において。さらに、土地開発基金として7億7,000万円あるわけでございます。そうした変動のためにこれだけの積立金があるわけでございますから、思い切って私は政策を推進してもその財政運営には支障がないわけでございまして、そうした答弁というのはただ単なる答弁の答弁であって、じゃ何のための財政調整積立金21億もあるんだということになるわけでございまして、そういう面では今市民感情からいっても、市民の実態からいっても、積極財政、ぎりぎりの予算に挑戦していくということは必要であろう、こういうふうに思うわけでございまして、この点を意見として申し述べておきたいと思います。

各論として、2つ御意見を申し上げたいと思います。1つは、富士ディーゼルの跡地調査でございますけれども、これは予備費を流用いたしまして599万円の調査費が支出されているわけでございます。コミュニティセンターの周辺調査費については749万円行われているわけでございますけれども、これの執行に当たりましては議会やまたは内容からいって必ずしも十分だったとは言えません。特に、この富士ディーゼルの調査につきましては、その流用の経過、また調査の依頼の経過、その経過からいって非常に私は市政上誤りを犯すのではないかとされる結果になっていることは明らかでございます。そういう面におきましては、この調査費においては承認しがたいところであるわけでございますけれども、最近執行部の努力によりまして富士ディーゼルとの土地交渉につきましては12月まで延期をしてその中で解決を図るということでございますので、私は当然解決が図られるものと確信しておりますし、また図らなければこれはもう大変なことであって、そして今回のこの状態に至る1つのきっかけというんですか、要因の1つに富士ディーゼルの調査委託内容が間違っておったということがはっきり言えるわけでございまして、あれが間違っておらずに適正なものであれば県も承認したわけでございますから、県が承認しておればこういう事態にならなかったわけでござ

いますけど、県が承認できないような、県に断られるような調査を執行部独自でやった、議会の了解も得なかった、そういう中の執行についてはこれはもう完全に誤りと言っていいわけですが、しかしその後におきますところの努力と12月までの間にこれらを解決するという意欲は示されたわけですので、この点については了解いたしまして、そういう方向で私どももこの調査結果については不十分であったけれども、やはり公共下水道の実現という意味からやはりこの終末処理場の確保のために12月の間努力をしたい。このことについては真剣にひとつ取り組んでいただきたい。

コミュニティセンターの周辺整備について 749万円につきましては決算委員長の方から詳細説明がございましたから、やはりこれらの内容については議会に公開し、議会と一体となったところのやはり基礎調査、そして開発計画というものを進めていかなきゃならない。この点については答弁の中でもって市の方の意向も示されたわけですので、これからの調査、基本計画の策定については議会また地域住民の意見というものを十分反映させながらひとつ取り組んでいただくことを要望したいわけですので。

最後に、主要事業費の予算でございますけれども、館山市は先ほど来言われておりますように過疎と高齢化の中でもって非常に厳しい状況であるわけですので。そうした中において、衛生費1億 7,736万円、農林水産費 6,958万円、商工費1億 2,100万円、土木費 8,785万円、教育費 4,373万円が、平成元年度対比からいってこれだけの額が減額になっておるわけですので。この衛生、農林、商工、土木という基本的非常に重要な、また市民が直接要望している事項、そうした面において前年度予算よりも下回っているということについては、これはかなりやっぱり問題があると思います。予算全体的にはきちんとした執行はなされておりますけど、こうした各論的に見てまいりますとこうした重要な農業とか商工とか土木、こういう面について前年より下回っているということは、その内容を個々に分析してまいりますとそれなりの事情はあるけれども、しかし下回っているということは事実でございますから、こうしたものについては私は前年を上回るかなり大幅なペースでもって市民の要望に応えていかなきゃならないわけのでござ

いまして、結果的にこうした主要科目について前年、平成元年対比で決算が減額になっているということについてはやはり十分考慮いたしまして、今平成4年度の予算編成に当たっているわけでございますけども、こうしたことのないように前向きなひとつ予算編成をしていただきたい。

このことを要望いたしまして原案に対しまして賛成するものでございます。どうかよろしく執行のほどをお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、認定第1号一般会計決算について起立により採決いたします。

本決算についての委員長の報告は認定であります。

本決算を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、認定第1号一般会計決算を認定することに決しました。

次いで、認定第2号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

本決算についての委員長の報告は認定であります。

本決算を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、認定第2号国民健康保険特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第3号老人保健特別会計決算について起立により採決いたします。

本決算についての委員長の報告は認定であります。

本決算を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、認定第3号老人保健特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第4号ユースホステル特別会計決算及び認定第5号学童災害共済事業特別会計決算について一括して採決いたします。

各特別会計決算についての委員長の報告は認定であります。

各特別会計決算を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、認定第4号及び認定第5号の各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

次いで、認定第6号水道事業特別会計決算について起立により採決いたします。

本決算についての委員長の報告は認定であります。

本決算を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、認定第6号水道事業特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第7号国民宿舎事業特別会計決算について起立により採決いたします。

本決算についての委員長の報告は認定であります。

本決算を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、認定第7号国民宿舎事業特別会計決算は認定することに決しました。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第7、議案第41号工事請負契約の締結についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(福原 勤君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 議案の説明を求めます。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 議案第41号工事請負契約の締結について提案理由を御説明申し上げます。

排水路浄化施設設置工事にかかる指名競争入札の結果、鹿島建設株式会社東京支店が2億1,012万円をもって落札いたしましたので、同社と工事請負契約を締結しようとするものでございます。

工事内容といたしましては、県立安房水産高等学校下の汐入川わき海岸砂地に鉄筋コンクリートづくりの処理施設を設置し、日量1,300立方メートルの排水を浄化処理するもので、工期を翌年3月25日までとするものでございます。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

◎議長(福原 勤君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長(福原 勤君) これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長(福原 勤君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長(福原 勤君) これより討論を行います。

討論ありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長(福原 勤君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第8、議案第42号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(福原 勤君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 議案の説明を求めます。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 議案第42号館山市教育委員会委員の任命について提案理由を御説明申し上げます。

館山市教育委員会委員中杉村芳枝さんが平成3年9月30日をもって任期満了となりますので、その後任といたしまして人格、識見ともにすぐれている高橋博夫さんを適任と考え、任命いたしたいと存じます。

御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。

辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 教育委員そのものについては結構ですけども、この任命によりまして女性の教育委員がいなくなるわけでございますけれども、この点についてはこれまでの経過、そして庄司市長の就任に当たっての抱負、これらから持っていくますと若干変わった新しい状況になるんじゃないか。高橋先生はそれを上回る識見と力があるかと思えますけれども、この点についてどのようにお考えになっておられるのか、一応聞いておきたいと思えます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今の世の中性別、そういうものの区別はないという基本路線に立っておりますが、ただこれからの時代考えまして女性の登用は当然のことかと思えます。ある幅でお考えいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長(福原 勤君) これより討論を行います。

討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長(福原 勤君) これより採決いたします。

教育委員会委員の任命について同意を求める件はこれに同意することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、教育委員会委員の任命について同意を求める件はこれに同意することに決しました。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第9、発議案第6号第8次治水5箇年計画の策定と計画規模の大幅拡大に関する意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(福原 勤君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 議案の説明を求めます。

岩村勝弘君。御登壇願います。

(12番議員岩村勝弘君登壇)

◎12番(岩村勝弘君) ただいま議題となりました発議案第6号第8次治

水5箇年計画の策定と計画規模の大幅な拡大に関する意見書について提案理由を説明いたします。

平成4年度以降の5カ年で実施すべき治水事業に関する計画、投資規模等について現在国において検討されておりますので、積極的な投資規模を確保するとともにその強力な推進を関係機関に要望いたしたく、お手元に配付のとおり7名の賛成者を得まして本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第10、発議案第7号館山駅周辺整備調査特別委員会の設置についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（福原 勤君） 議案の説明を求めます。

川名正二君。御登壇願います。

（19番議員川名正二君登壇）

◎19番（川名正二君） 発議案第7号館山駅周辺整備調査特別委員会の設置について提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり、東京湾横断道路の建設、リゾート開発の推進等、本市を取り巻く諸情勢は大きく変化をいたしております。市におきましても、長期的な展望に立って施策の推進に努められているところでありますが、議会といたしましても当面する重要課題であります館山駅周辺整備について特別委員会を設置し、議会の立場から調査検討を進めるため、お手元に配付のとおり8名の賛成者を得まして本案を提出した次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明いたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

館山駅周辺整備調査特別委員会委員の選任

◎議長（福原 勤君） ただいま設置されました館山駅周辺整備調査特別委員会委員の選任については、委員会条例第5条第1項の規定により、

1 番議員 秋山 光章君

2 番議員 増田 基彦君

5 番議員 宮沢 治海君

6 番議員 植木 馨君

11 番議員 山崎 雅己君

15 番議員 山中金治郎君

17 番議員 鈴木 忠夫君

19 番議員 川名 正二君

27 番議員 横溝 功君

以上、9名を指名したいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました9名の諸君を館山駅周辺整備調査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました館山駅周辺整備調査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第11、発議案第8号及び発議案第9号の各議案を一括して議題といたします。

議案の朗読は省略いたします。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 議案の説明を求めます。

川名正二君。御登壇願います。

(19番議員川名正二君登壇)

◎19番(川名正二君) ただいま議題となりました発議案第8号館山市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について及び発議案第9号館山市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり、地方自治法の一部改正が行われ、議会の機能の充実が図られました。その内容は、常任委員会は当該普通地方公共団体の事務に関する調査または審査のため必要があると認めるときは、参考人の出頭を求めその意見を聞くことができることとされております参考人制度が創設されまし

た。さらに、地方公共団体の議会は条例で議会運営委員会を置くことができると規定され、議会の運営に関する事項、議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項、議長の諮問に関する事項について調査を行い、議案、陳情等を審査することが明文化されました。

本市議会におきましては、各市の状況等も勘案しながら種々検討を進めてきたところでありますが、法改正の趣旨に基づきまして委員会条例、会議規則の所要の改正を行い、さらに円滑な議会運営を図ろうとするもので、8名の賛成者を得て本案を提出した次第であります。具体的な改正内容につきましの説明は省略させていただきますので、御了承願います。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

各議案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたし

ます。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午後2時08分 休憩

午後2時11分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議会運営委員会委員の選任

◎議長（福原 勤君） ただいま設置されました議会運営委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、

9 番議員 脇田 安保君	13 番議員 榎本 春光君
15 番議員 山中金治郎君	18 番議員 日下 君敏君
19 番議員 川名 正二君	21 番議員 神田 守隆君
23 番議員 石井 昌治君	26 番議員 辻田 実君
27 番議員 横溝 功君	

以上、9名を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました9名の諸君を議会運営委員会委員に選任することに決しました。

暫時休憩いたします。

午後2時12分 休憩

午後2時21分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

各委員会所管事務の閉会中継続調査について

◎議長（福原 勤君） 日程第12、各委員会所管事務の閉会中継続調査についてお諮りいたします。

各委員会において、お手元に配付の所管事務の閉会中継続調査申し出事件一覧表のとおり、閉会中も継続して調査したいとの申し出がありました。

お諮りいたします。各委員会から申し出のとおり閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各委員会から申し出のとおり閉会中の継続調査とすることに決しました。

閉 会 午後2時22分

◎議長（福原 勤君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第3回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第32号乃至議案第42号
- 1 請願第1号
- 1 認定第1号乃至認定第7号
- 1 発議案第6号乃至発議案第9号
- 1 継続審査について（請願第3号、請願第4号）
- 1 各委員会所管事務の閉会中継続調査について

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員

